

稲と畑作物の儀礼



自然とともに

田畑の仕事や養蚕・果樹栽培などの仕事は、自然とともにあり、雪形や花の咲き具合を見ながら作業をすることも少なくありませんでした。しかし、自然の恩恵を受けるだけでなく、天候不順や暑さ寒さの影響を受け、大きな被害をこうむることもありました。

したがって、様々な作業を始めるとき、終わったときには収穫物を供えて神をまつることを忘れませんでした。



堰の整備は重要な仕事

苗代しめ

卯月八日の花まつりが過ぎると、苗代づくりを始めます。種もみを小さな俵などに入れ、水やぬるま湯に浸して芽ぐませます。その間に苗代に蒔き地をつくり、水を入れて芽ぐんだ粃種をまきます。酉の日がいいといわれていました。

蒔き終わると、小正月の小豆粥を作るときに使用したケーカキボーを苗代の水口に立てます。これは、田の神様をお迎えする門。ケーカキボーの頭にヤコメ（焼き米）を供える家もありました。

苗代の真ん中に柳の枝4本を四角に立てます。これは田の神様の腰かけだといい、田の神様は田んぼの様子を見守ってくれます。



雪形：さまざまな種をまく目安となるもの



常念坊は
代表的な
雪形です。

常念坊が表れると田植えの準備を 馬耕



苗とり



田植え



田植えは大勢で

田植えは大勢で行うと実りも多いといわれ、多い家では20人もの人で行いました。賃金を出して早乙女を雇う場合もありましたが、多くは互いの家を手伝いあうユイ（エエとかエエッコともいいます）で行いました。

田植えの小昼には稲の実りが良いようにと、黄金色をしたきなこむすびやニンシンと昆布の煮物が定番でした。タケノコやフキの煮物も旬のものとしてよく使われました。



田植のオコヒル

マンガレー（馬鍬洗い）

家の田植えがすっかり終わると、手伝ってくれた人や奉公人・家族などみなでお祝いをします。馬ぐわを洗ってそこにもお供えをしますので、馬鍬洗いがマンガレーと呼ばれるようになりました。

「春田がおわった」などとも言いました。麦を田んぼにつくっている家は「春田」が終わるとすぐに麦刈りをし、ハゼにかけ、麦のあったところを起こして代掻きをし、稲を植えます。これを「あと田」といいました。あと田は遅くても6月18日ごろまでは田植えを終わらせなければならないといわれ、昼寝もせずに1日で10日分の仕事をしたといいます。食事を一日5～6回も摂って、重労働をこなしたそうです。



苗を小束にして3把をまとめ、その上にご飯や赤飯をのせて神棚に供えます。この苗は七夕まで取っておいて、七夕の日に杵を洗ったりするのに使います。

農休み

どこの家でも田植えが終わったころ、農休みをしました。豊科では7月1日から3日までが農休みで、米やみそをもって中房温泉などに自炊湯治に行く家もあったといえます。

村によっては、子ども相撲などが行われ、子ども組の大将の家ではおにぎりや煮しめを作って、招待した村人に振る舞ったそうです。

相撲場と呼ばれる場所に土俵を作って行われました。

田の草取り

一番草といわれる最初の草取りは、田の中を這いつくばるようにしてとりましたが、写真のように最初から機械を使用する家もありました。



実りを迎えた田んぼ



稲刈り

稲刈りは当然人力で。
刈った稲はハザにかけ
て乾燥しました。



脱穀（いねこき）



田んぼに麦を作る「アトダ」

麦は畑に作られたり、田んぼに作られたりしました。麦は、11月上旬から中旬にかけて蒔きます。肥料は灰・下肥・鶏糞・蚕尻・堆厩肥などで、麦種を下肥などに混ぜて蒔いたといひます。化学肥料が出回ると、下肥と混ぜて蒔く方法などを行われなくなりました。凍みあがった麦畑を踏む麦踏、4月の土いれなどは欠かせない作業でした。

田んぼに作った麦は、ほかの田んぼの田植えが終わると、大至急刈り取ってハゼにかけ、その後を起こして稲苗を植えました。これを「アトダ」といい、アトダの作業は休む時間もないほど急ピッチで行われるので、重労働だったといひます。



大麦刈

脱穀の澄んだ小麦は水車で粉に挽き、うどん・饅頭・薄焼きなどの材料に使われました。七夕饅頭も新しい粉で作ります。



時期の野菜や
新粉を使った
まんじゅうを
供えます。

七夕の小豆ほうとう 松本市などでは、七夕の日には小豆ほうとうを作って供えたり、食べたりします。



七夕の伝承

- ▶ 七夕の日の一つぶでも雨が降ると、七夕様会えないので虫が生じない。
- ▶ 七夕の日に洗い物をするとうよく落ちる。髪の毛などもきれいになる。杵などは一年に一回この日に洗う。そのときに、マンガレーに供えた稲苗をたわし代わりに使う。
- ▶ この日をナノカビ・七日盆といい、墓掃除をしたり、するところが多い。
- ▶ この日、必ず水浴びをして穢れや眠気を落とさなければいけない＝盆前のみそぎと考えることができる。
- ▶ この日、めずら（いんげん）畑に入ると七夕様が畑の中であっているので入ってはいけない。
- ▶ 馬鈴薯や捧などを持ち寄って共同飲食を子供たちがした。＝野菜の収穫祝いとみることができる。